

ならの木便り 『生きる力』を育む



年少クラスの子どもたちは、教室の境の戸を開けると年長のお兄さんお姉さんがいる、反対側を開ければ年中児のお兄さんお姉さんがいる、3つのクラスはいつでも交流が出来る環境です。いつでも縦割保育なのです。そこでなんとかお兄さんお姉さんを見習って、良いことも悪いことも見習っていきます。年上の子供達といつも接することで、いつのまにか沢山の知恵が身につきます。年上の子供達は、弟妹のような子供達を時にはケアしたり、時には憧れの目で見られることで自信が付き、もっと向上しようとする意欲が湧きます。

青空の下、ボール遊び、縄跳び鉄棒、乗り物を走らせる子どもら、総合遊具の上り下りを何度も繰り返す子、砂場から小さな貝殻を見つけ出して、大切そうに靴箱に置きに行く子、頭と頭をくっつけ合うようにしてダンゴ虫などを夢中で探す子、蟻の行方を見守っている子、捕まえた虫を見つめる子たちに私はいつも声をかけます。

「遊んだら殺さないように逃がしてあげてね。お父さんやお母さんのところに帰してあげてね」、子ども達は「うん」とうなずきます。幼い手のひらの上に小さく丸まった小さな虫にも命を感じて欲しい、そこから自分の命の尊さもいつかは悟って充実した人生を歩んで欲しいといつも願っております。



年少児から年長児まで一緒に始めるチャレンジタイム、朝のほんの5分程度、線のお稽古から図形のようなかたち、手首の動きを柔らかくし鉛筆の動かし方をスムーズにして、やがて文字のお稽古に入っていきます。卒園までに上手に文字が書けるようになる、それがこの永年続けているチャレンジタイムです。手首の柔らかさは箸のお稽古に役に立ちます。日本人として、正しく箸を使うのも大切なことと思っております。和式トイレもまだ沢山残されております。いざというときに困らないように練習します。

体力作りも、毎朝のラジオ体操やマラソン、園庭で思い切り駆け回る日々、元中学校の体操の教師をしていた先生との毎日のふれ合い、体操の講師の先生の楽しい体操指導、そんな日常や遊びのなかから、いつの間にか怪我をしにくい柔軟な身のこなしが身につけていきます。

日常の挨拶、話を良く聴く態度、着替えの仕方、絵本の読み聞かせ、ひな祭りや節句、豆まき、お芋の苗植えや収穫、なつまつり、お泊まり会、お買い物、移動動物園や運動会、お遊戯会、お別れ遠足。

ここ2年間は、コロナウイルスの影響で出来ない行事が沢山ありました。そんななかでも、子ども達はのびのびと園生活を楽しんでおります。



幼稚園は、やがて社会に巣立つときのための初めての学校です。それぞれの興味に誘われて顔を輝かせている、そうやって『生きる力』を育てている、そのような子ども達の心に寄り添い、喜びや悲しみ、辛さ悔しさを共有していきたい、それが私たちの役目だと考えております。

